

平成26年度 授業改善推進プラン【体育科】

1 日常の学習における課題分析

<技能>

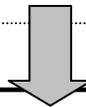
休み時間になると、積極的に外遊びをする児童とあまり外遊びを好まない児童の二極化現象が生じている。その結果、日常生活の経験の差が、体力(能力)の差となって表れている。走・跳の運動、投げる、捕るなど体の基本的な動きにおいても、児童の得意・不得意は顕著に表れており、運動感覚や体力の低下が見られる。今年度の体力テストの結果からも全体的に持久力、握力、投力、調整力等に課題が見られる。

<関心・意欲・態度>

「体育の授業は好き」という児童は多く、意欲的に取り組む児童も多い。

<思考・判断>

児童はルールを考えたり、運動を工夫したりする活動を友達と協力してできるようになってきている。しかし、健康や安全についての関心はあっても、日常生活を振り返り、それを確実に理解している児童はあまり多くない。



2 授業改善の方策

【指導計画】

児童の心身の発達や特性を考慮し、運動の特性に系統性をもたせた指導計画をたてる。

言語活動の充実については、**集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育む**とともに、運動やゲームの練習や作戦を考え、改善の方法を互いに話し合う活動を取り入れ、**論理的思考力を育む授業**にしていく。(課題解決型の学習を目指す)

【指導方法】

◆児童が体全体を使って運動できるような活動・遊びを取り入れる。

運動感覚や体力を高めていくためには、**体をたくさん使い、児童が思い切り運動できるような活動・遊びを授業に多く取り入れていく**ことが大切である。「体育が苦手」と思う児童の多くはその運動をするにあたっての必要な運動感覚が不足しているからである。

- ・遊び感覚のある簡単な場の工夫をする。
- ・クラスで話し合いを重ねクラスのルールをつくっていく。
- ・力一杯活動できる時間、運動量を確保する。
- ・校内研究「体づくり運動」を軸にして、集団行動についても全校で統一する。

◆指導と評価の一体化

児童が自らのめあて(課題)をもって運動に取り組み、それが十分に達成できるように、教師が児童一人一人の学習状況に応じた支援を行う指導を展開する。児童が自ら次のめあてをもつことにつながる。→**運動の楽しさを味わわせる体育学習**

- | | | |
|--|--------------|-----------------|
| ・教材研究 | ・スモールステップの授業 | ・学習カードの活用 |
| ・教師の言葉かけの工夫 | ・ルールや場の工夫 | ・児童のかかわり合いの充実 |
| ・十分な運動量の確保 | ・副読本の活用 | ・満足感や達成感が得られる授業 |
| ・健やかな体を育むために、一人一人の毎日の生活と健康について振り返らせる時間 | | |



3 活用につながる指導

段階的な場を用意して、場に応じた具体的な運動のめあてを明確にもてるようにし、個の能力に適した場で運動するとともに、体力の高まりを実感できるようにする。

また、体育的活動を通して、多様な運動経験を構築したり、授業の中で運動の日常化につながるような学習を展開したりして、運動する機会を増やすきっかけづくりを行っていくようにする。

健康・安全面については、発達段階に応じて計画的に指導し、日常生活に活かせるようにする。